

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503692		
法人名	有限会社マネジメントコンサルタント		
事業所名	エンゼルホーム北野		
所在地	札幌市清田区北野4条4丁目25-10		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成31年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの廻りは、とても緑が多く、春から秋までは畑で作物や花壇を作り皆で収穫し美味しく頂いております。ホーム内では、季節の花々を入居者様が毎日飾られています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigvosyoCd=0170503692-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年1月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から14年目を迎える2ユニットの事業所は、清田区の閑静な住宅街に在り、旧幼稚園を改造した2階建ての建物は、淡い色彩の外壁とオシャレな外観が引き立っている。バス路線も多く、近隣には公園や高校、病院、大型スーパー、飲食店が点在し、利便性の良い環境である。事業所には広い前庭が有り、利用者は花や菜園作りに励み、収穫した食材は食卓を彩り、花は居間や居室を華やかにし、利用者を笑顔にしている。室内もバリアフリーで、階段を中心にした回廊式設計は、リハビリを兼ねた歩行運動に効果的な共有空間となっており、居間は日当たりも良く、明るい雰囲気でも利用者同士の会話も弾んでいる。介護支援専門員でもある運営者は、管理者、職員が日々のケアに専念できる環境を作りたいと、介護計画の作成は基より、地域や行政との協力関係継続への取り組みや食材の調達、利用者の緊急対応や話し相手まで努めるなど、「その人らしい笑顔あふれる自由と安らぎの暮らし」の継続に、職員と一体となったチームケアに取り組んでいる。家族との繋がりも、毎月郵送される「介護記録」や2か月毎の「エンゼル便り」で、利用者の健康状態から日々の暮らしぶりを伝える事で、安心と信頼を深めている。事業所は、利用者の個性を尊重し乍ら、1日1回は必ず外気に触れる取り組みとして、買い物や公園の散歩、菜園作り、テラスでのお茶会など、一人ひとり丁寧にサポートし、工夫を凝らし支援している。終の棲家として看取りにも取り組み「穏やかに互いを思いやる暮らし」を目指し意識を高めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常生活の中で、理念、実践の努力をする	地域との関わりを大切に、その人らしい暮らしを尊重した理念を掲げ、パンフレットを始め、事業所内に掲示している。職員は常に立ち返れる様に理念を携帯し、毎月の会議でも話し合い理解を深め、日々のケア場面や介護計画作成に反映させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会会合、見学会、清掃活動等理解につながる交流を継続している。	地域の清掃活動に利用者と共に参加し、日常の散歩や買物時でも、地元住民と挨拶を交わし、顔馴染みの関係である。読み聞かせのボランティア訪問は利用者の楽しみ事となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解、支援の方法を地域に向け積極的には、行っていないがホーム開放見学をおこなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議を行なっている。その場で報告、話し合い等、行われている。	運営推進会議は年6回開催している。活動報告に加え、外部評価実施説明、虐待防止、身体拘束、消防訓練等について話し合いを持ち、事業所への理解と意見や情報の交換が行われ、運営の充実やケアの向上に活かしている。	参加メンバーが少数固定化されており、家族の参加も見受けられないので、知見者も含めたメンバーの拡大、参加し易い日程の調整などの工夫を期待したい。併せて職員や利用者の参加を促し、幅広い意見を活かす取り組みにも期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区の担当者、地域包括担当者とは、日頃から連絡を取り合っている。	事業所運営についての諸手続きや相談は運営者が中心となって執り行われ、協働関係を築いている。ケースワーカー来訪時にも情報交換を行い、利用者の安心な暮らしに繋げている。管理者は、市の管理者会議や研修会に参加し、行政からの意向や情報を汲み取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表、職員全員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化による指針を作成し、委員会を設置し、研修会も併せて、随時開催している。職員休憩所に身体拘束に関わる注意事項や接遇マナー項目を掲示し、職員に注意喚起を促している。運営推進会議においても、適切なケアへの取り組みを伝え、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しては、常に意識もち接している。日頃から互いに注意できる関係にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格試験の勉強などで学ぶ方法、機会はあるが、活用についてはされていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、十分な説明を行い理解、納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族の方が意見要望を表せやすい雰囲気作りを心掛けている。また、玄関に意見箱を置いている。	来訪される家族とは、常に話し合う機会を設け、様子を伝えている。更に、毎月郵送の「介護記録」、2ヵ月毎の「エンゼル便り」で利用者の健康状態や事業所での暮らしぶりを報告しているの、遠方の家族にも喜ばれており、表出された要望は改善に向けて協議している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見交換がしやすい職場作りを心掛けている。また、職員会議でも意見交換をしている。	運営者は常に現場に入っていて、毎月のカンファレンスにも参加しており、管理者、職員とは日常的に何でも話し合える関係性を築いている。業務の見直しやケアサービスの提案等の意見交換も活発に行われ、改善に向け取り組んでいる。要望に応じて個人面談を行い、働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り努めている。キャリア形成、キャリアアップも適時行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修条件整う社員には、実践者研修へ参加していただき認知症の全体把握を行なっていた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会に参加、交流の機会はある。他研修等参加は行っていない。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様が、求めていることを理解し、きちんと向き合ってお話をさせていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の求めている事を理解しお話をうかがっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	往診、訪問、理美容、歯科等本人の希望を取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長い人生、経験から学ぶことも多く、互いに支え合えるよう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日誌、記録等又来訪時にご本人の様子など伝え情報の共有に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話やハガキ等のやり取り、外出等も含め、家族とも協力しながら支援に努めている。	大切な人との手紙や電話のやり取りを支援している。手芸倶楽部や地元の友人等の訪問を受けている。家族の協力を得て、外出時の外食やお正月を自宅で過ごす外泊など、本人の望む習慣の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で、外気浴や散歩レクなどで共有できる場を提供し、関わりあえるよう支援している。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	心配事等があったときは、いつでも連絡いただき相談に応じています。又、立ち寄っていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や様子から思いや希望を取り入れ、その人らしい生活が送れるように努力している。	利用者とは、昼食後やテレビ鑑賞時のゆったりとした時間に交わす会話や入浴時の1対1でのおしゃべりから思いや本音の引き出しに努め、情報は職員間で共有し、カンファレンスで話し合い、具体的対応に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にお話を伺っている。本人からも会話の中から把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期カンファレンス、日々の申し送り等で現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期カンファレンス、モニタリング等で、ケアの問題を話し合い又、ご家族様ご本人の意見を聞き、介護計画を作成している。	居室担当を始め、職員間で利用者の状況を確認し合い、課題や問題点を抽出して、カンファレンス時にモニタリングを行い、検討して介護計画を作成している。利用者、家族の意見を反映し、3～6ヵ月毎の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、変化等がわかるよう記録し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで読み聞かせ等行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度の往診を実施、他の病院への受診、送迎等も行っている。	利用者全員が24時間連絡体制の協力往診医を主治医とし、2週に1回の定期診察を受けている。入院必要時は主治医から紹介が得られている。専門医への通院は事業所が対応し、週2日勤務の看護師職員が医師と連携を図り、健康管理に努めている。歯科の定期訪問も利用している。	

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員とは、週2日詳しく報告、相談出来る時間があり、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーと連絡とり、情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際には、事業所の方針を明確にし職員、家族、医療関係等共有しチームで支援に取り組んでいる。	医療連携体制の下に、ターミナルケアの経験も有る。契約時に重度化や終末期の指針を説明し、同意を得ており、急変時には再度意思確認を行い、主治医や家族、職員と方針を共有し、意向に沿った支援にチームケアで臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は、行っていないが応急手当等マニュアル化し、職員で話し合っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を職員と利用者様にも参加してもらい行っている。	昼・夜想定火災訓練を利用者と共に実施している。土砂災害時での協力連携体制を地主や地域と協議し、避難場所を区の集会場に定めている。職員の緊急連絡網を整備し、備蓄品の充実を図っている。	土砂災害警戒区域の指定地でも有り、昨年9月の胆振東部地震を教訓として、懸念される様々な災害を検討し、シミュレーション及び実践的訓練に住民の参加を得て行なうなど、地域との更なる連携強化を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ、対応に努めている。	居室・トイレ・浴室への入室時には必ずノックを忘れず、言葉かけも相手を否定しない対応を心掛けている。羞恥心や恐怖心への配慮として、ケア動作の前に声をかけてから対応する等、誇りやプライバシーの確保、人格尊重に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思い希望を聞き本人が決めることは、決めて頂ける支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位にならないよう、柔軟に対応出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に添えるように心がけ、日常的に身だしなみのお手伝いをさりげなく行っている。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好み等会話の中から聞き入れ反映している。職員と一緒に食事、片付けをしている。	食事は手作りを基本とし、日常の食事から誕生日のケーキ、季節の行事の特別食、おやつも職員が利用者の希望を取り入れて、メニューを作成し、食事形態も検討し、食べる意欲を優先した調理に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録に記入している。一人一人の状況によって食事形態を配慮し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自身で歯磨きしていただき、できない方に介助にて口腔ケアをおこなっている。訪問歯科の指導も受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。	利用者の半数は自立しているが、職員は全員のチェック表を作成し、利用者の生活リズムを把握して、時間誘導や声掛けを行い、トイレでの排泄を支援している。下着や衛生用品、ポータブルトイレ等も利用者の状況に合わせて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体操への参加等、予防に取り組んでいる。又、かかりつけ医より便秘薬の処方		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	前日に声掛けなど一人一人の希望に添えるよう支援している。	入浴は、二人介助や同性介助等の要望を取り入れて、週2回以上を目安に支援している。現在は拒む利用者も無く、入浴時間はリラックスタイムとして、プライバシーに配慮し扉を閉めて気配を感じながら支援したり、1対1での会話を楽しむ機会として対応する等、寛ぎやゆったり感を大切にしている。機械浴も備え、利用者の清潔維持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境を整え、安心して休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で服用している薬の把握、理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に応じて役割や、楽しみなこと、散歩や外気浴、買い物等気分転換になるよう支援している。		

自 己 評	外 部 評	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩、外気浴等支援を行なっている。	気候の良い日はテラスでお茶を楽しみながら日光浴をしたり、畑作業や散歩、買物等、日常的に外気浴支援に努めている。春の花見や秋の紅葉狩り等の季節行事に加えて、家族の協力の下に、外食、外出、外泊など、個別の対応で気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や力に応じて、お金を所持し使えるよう支援しているが人によってホーム側で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも手紙、電話をする事が出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、入居者様が不穏な思いをしない様気持ちよく過ごす事が出来る工夫に努めている。壁飾り等で季節感の演出も行っている。	改造型の事業所は、エレベーター設置のバリアフリー化されており、階段を中心にした回廊式设计は、利用者のリハビリを兼ねた歩行運動には効果的な共有空間となっている。リビングは日当たりも良く、明るい雰囲気、玄関や廊下の壁には、利用者、職員共同の手作りの装飾品や美術絵画、動物写真などが飾られ、利用者が安らぎを感じられる空間作りを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは、仲の良い方とお話をしたり、天気の良い日は、外のテラスで日光浴をしたりと過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、慣れ親しんだ物の利用をお願いしている。清潔な心がけ気持ちよく過ごして頂けるよう努めている。	入居時には、利用者が大切にしている仏壇や形見の日本人形、鏡台、趣味の楽器などを持ち込み、時計や家族写真、手作り品なども飾りつけ、自分らしい個性的な居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋に表札、目印をつけ出来る限り自立した生活が送れるように工夫している。		